



2010年10月12日

コルクレポート：ポルトガルフェアへのコルクサンプル展示

ポルトガルコルク工業会（APCOR）は、日本におけるコルク床材のキャンペーンの一環として、10月1日からフォーシーズンズホテルで開催されている、ポルトガルフェアにて、新しい世代のコルク床材サンプルを展示しています。フォーシーズンズホテル椿山荘3階のアートギャラリーにて、従来のコルクのイメージを払しょくする、多彩な色やパターンの床材のサンプルをご覧ください。

フォーシーズンズホテル椿山荘では、10月1日から10月31日まで、日本・ポルトガル修好通商条約150周年を記念して、日本ポルトガル修好通商条約150周年記念公演実行委員会主催、ポルトガル大使館共催のポルトガルフェアを開催しています。アートギャラリーでの製品展示に加え、ホテル内レストランにて、ポルトガルからシェフを招いたテイスト・オブ・ポルトガルを提供しています。

コルクは、100%リサイクル可能なエコな素材であると同時に、高温多湿な日本の住環境を快適にする、優れた特長を数多く持っています。1cm³に8,000万個の細胞組織を持つコルクは、組織内に空気を含むため保温性が高く、天然のクッションとして柔らかいので、関節への衝撃を吸収します。また、空気が音や振動の伝播を防ぎ、回復力が高く耐摩耗性も高いことから、病院・図書館などにも利用されています。気泡の伸び縮みが湿度を調節し、梅雨時でもカビの発生を防ぐため、アレルギー症状が出にくいという特長も備えています。

加えて、現代のコルクは染色技術や表面処理技術が進んだことから、多彩な色やパターンがあり、インテリアデザインの可能性は無限にあると言えます。百聞は一見に如かず、ぜひ展示されたコルクのサンプルをご覧ください。

ポルトガルは世界有数のコルクの生産地として知られており、世界のコルク生産の約半分、コルク製品の約4分の3はポルトガルからのものです。コルク樫の森は年間約1400万トンの二酸化炭素を吸収し、生物多様性にも貢献していることから、ポルトガル政府はコルク樫の森を手厚く保護しています。

コルク床材に関する詳しい情報はこちらをご覧ください。<http://naturalcork.jp>





2010年10月12日

